

授業改善の視点を持ち
続けよう

8 「主体的・対話的で深い学び」

「主体的・対話的で深い学び」の実現

これからの教育は、生徒たちが「何を知っているか」だけではなく、「知っていることを使ってどのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか」ということが大切であり、知識・技能、思考力・判断力・表現力等、学びに向かう力・人間性等の資質・能力の三つの柱を、いかに総合的に育てていくかが求められています。

このためには学びの量とともに、質や深まりが重要であり、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善への取組（いわゆる「アクティブ・ラーニング」の視点）が注目されています。

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善

☆アクティブ・ラーニングの視点からの授業改善

形式的に対話やグループ学習のような「型」を取り入れるのではなく、生徒の興味関心から個性に応じた質の高い学びを引き出し、どのような資質・能力を育むのかという観点から、学習の在り方そのものを問い直し改善を目指すものです。

大切なのはこれからの時代に求められる資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的に学び続けたりすることです。そこで、資質・能力を育成するため、「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」の視点から授業改善に取り組んでいきましょう。

中央教育審議会の答申では「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業の工夫・改善の視点を以下のように示しています。

- ① 学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」が実現できているか。
- ② 子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める「対話的な学び」が実現できているか。
- ③ 習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう「深い学び」が実現できているか。

「主体的・対話的で深い学び」の実践

上記で述べたような学びを実現するための学習・指導方法は限りなく存在し得るものであり、教員一人ひとりが、生徒たちの発達の段階や発達の特性、学習スタイルの多様性や教育的ニーズと教科等の学習内容、単元の構成や学習の場面等に応じた方法について研究を重ね、ふさわしい方法を選択することが必要です。

具体的な内容としては、次のような例が参考になります。

【主体的な学び】

- 学ぶことへの興味や関心を持たせる。
- 毎時間、見通しを持って粘り強く取り組ませる。
- 自らの学習をまとめ振り返り、次の学習につなげる。

【対話的な学び】

- 実社会で働く人々が連携・協働して社会に見られる課題を解決している姿を調べたりする。
- 実社会の人々の話を聞いたりすることで自らの考えを広める。
- 生徒同士の対話に加え、生徒と教員生徒と地域の人、本を通して本の作者などとの対話を図る。

【深い学び】

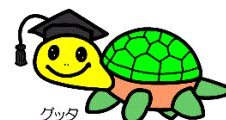
- 事象の中から自ら問いを見だし、課題の追究、課題の解決を行う探究の過程に取り組む。
- 精査した情報を基に自分の考えを形成させる。
- 目的や場面、状況等に依りて伝え合ったり、考えを伝え合うことを通して集団としての考えを形成したりしていく。

これらの三つの視点は、学びの過程としては一体として実現されるもので、それぞれ相互に影響し合うものですが、学びの本質の重要な点を異なる側面から捉えたものであり、授業改善の視点としてはそれぞれ固有の視点であることに留意が必要です。また、相互のバランスに配慮しながら学びの状況を把握し改善していくことも求められます。

「主体的・対話的で深い学び」の実現とは、特定の指導方法や指導の「型」のことでも、学校教育における教員の意図性を否定することでもありません。また、今までの授業時間とは別に新たに時間を確保しなければできないものではなく、現在既に行われているこれらの活動を、「主体的・対話的で深い学び」の視点で改善し、単元や題材のまとまりの中で指導内容を関連付けつつ、質を高めていく工夫が求められています。

「見方・考え方」

授業改善が表面的な活動に陥らないためにも「深い学び」の視点は重要となってきます。その際にポイントとなるのは、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」です。学習の内容と方法の両方を重視しながら幅広い授業改善の工夫を実践してください。具体例は欄外の参考資料を見てください。



☆単元を意識した授業構想、 教材研究

「主体的・対話的で深い学び」は1単位時間の中で全てが実現されるわけではありません。実現のためには、単元や題材のまとまりの中で、主体的に学習を見通す場面やグループで対話する場面、教員が教える場面等を構想する視点が求められます。

「主体的・対話的で深い学び」に関する参考資料

- 幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）平成28年12月21日 中央教育審議会
(http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/_icsFiles/afieldfile/2017/01/10/1380902_0.pdf)